

第46回 日本ケーブルテレビ大賞 番組アワード グランプリ 総務大臣賞 ほか各賞発表！！

一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟(理事長 渡辺 克也 東京都中央区)は、全国のケーブルテレビ事業者が独自に制作する「ふるさと発」の優れた番組を顕彰し、地域住民のための映像情報文化の更なる発展を目指して日本ケーブルテレビ大賞 番組アワードを開催しています。今年はコロナ禍のため贈賞式のリアル開催をとりやめ、9月17日(木)にオンラインで開催しました。

番組アワードは、映像作品として優れた番組を評価する「コンペティション部門」、地域密着のケーブルテレビならではの番組づくりを評価する「コミュニティ部門」、応募者の裾野拡大や制作者の育成を目的とした「新人賞部門」、4K制作の推進を目的とした「4K部門」の4つの部門から成ります。

今年の応募作品数は、コンペティション部門 65本、コミュニティ部門 89本、新人賞部門 36本、4K部門 24本、合計214本に上りました。全国の会員事業者で構成した審査員48名で6月に行った予備審査で34作品に絞り込み、さらに外部有識者8名の審査員による本審査会を7月末にオンラインで行い、最終ノミネート23作品および各賞を選定しました。

贈賞式はオンライン会議システムを用いて開催し、連盟会議室より最終ノミネートの各局と審査員をつなぎ、各賞を順次発表しました。

グランプリ総務大臣賞は、(株)ケーブルメディアワイワイ「切れた堤防～宮崎県延岡市に見る霞堤～」が受賞。「霞堤」という切れている堤防によるその地域ならではの治水対策を紹介し、存在意義や課題をわかりやすく伝え理解を深める番組づくりや、地域の安心・安全を守る情報発信に取り組む姿勢などが高く評価されました。



「切れた堤防」ケーブルメディアワイワイ



「中海再生への歩み」中海テレビ放送

また、(株)中海テレビ放送「中海再生への歩み 市民と地域メディアはどう関わったのか」に対し、パブリック・ジャーナリズム特別賞が贈られました。同局が20年の長きにわたって中海の浄化に取り組んだ活動の記録であり、住民とともに地域の課題解決にあたるありようは、地域メディアたるケーブルテレビのジャーナリズムを示すものであると特段に評価されたものです。賞の名称もあわせて審査員で議論され、今回特別に顕彰されることになりました。

各部門による最終ノミネート23作品の受賞結果は【別紙】のとおりです。番組アワードのホームページでは、10月上旬を予定に改めて審査員の講評や受賞者のコメントを掲載し、許諾の得た作品はストリーミング再生で視聴できるように更新します。番組アワードの開催により、ケーブルテレビの番組制作力向上に寄与するとともに、優れた作品を広く発信するように努めてまいります。

～本件に関するお問合せは下記までお願いいたします～

一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟 <<http://www.catv-jcta.jp>>

コンテンツ部 担当:原・中田 TEL:03-3566-8200 E-mail:jcta_contents-lab@catv.or.jp